



# 東京日々新聞

五百六十六号

本号留平



東海道と往來せし大  
 教院の定宿あり一新講  
 社の判取帳を求めて  
 其表札ある店に休泊すしと  
 評判の高きも理あり此社中の客と  
 饗すに厚く酌婦娘の煩ひあり  
 遺失し物何ぞの百里の遠きを送致する  
 懸篤言語を交はるる若し本措あり  
 社員の私に忽ち社中を除き  
 此等遠島貸井取本多留  
 平ある若し周旋尽力せし



萬齋  
 万楽画

① 他に突起人講元の若と定めて自名取  
 専らせざるは性質とする謙遜評讓本多  
 長名此講社も願て諸國に擴るるハ  
 旅客大の便利を得

轉々堂録



人形具足堂

